

飯田短期大学紀要 執筆要項
(2023 年度 改訂版)

図書・学術委員会

目次

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 形式 | 5. キーワード (Key words 等) |
| 2. 表記法 | 6. 本文 |
| 3. 表題 | 7. 図 (写真) および表等 |
| 4. 要旨 (欧文の場合は, Abstract 等) | 8. 注 (註) および文献 |

1. 形式

A4版の用紙を縦おきし、横書きにする。本文は、40字×40行の形式で記載し、左右に空白を残しておく。完成原稿と保存した電子媒体（後者は閲読終了後）を提出する。

2. 表記法

- 1) 本文は、引用文を除き常用漢字、現代仮名づかい、常体とする。
- 2) 句点は「.」、読点は「.」とする。
- 3) 略号および略字は、初めてそれが出る箇所で、正式の名称に続けて（ ）内に記載しておく。ただし、慣用的でない略号はなるべく用いない。
- 4) **ゴシック体**、**イタリック体**等の書体は、そのまま原稿の中で使用する（アンダーライン等による指示は不要）。
- 5) 本文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。
章の表題には通し番号を付けない。節・項は以下の符号を使用する。
(例) 1. 2. 3.
1) 2) 3)
(1) (2) (3)
- 6) フォントは、和文原稿では明朝体 10.5pt、欧文原稿及び欧文抄録は Century 12pt とする。
- 7) 図、表、写真には、[図 1] [表 1] [写真 1] 等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。欧文で標記をする場合は [Fig. 1], [Table 1] とする。

3. 表題

- 1) 第1頁目には、和文題目、和文氏名、欧文題目、ローマ字氏名を上から順にセンタリングで記す。ただし、
 - (1) 和文題目が 30 文字以上の場合は、2 行にする。
 - (2) 和文氏名が連名の場合は、「・」で結ぶ。

2) 欧文題目については,

(1) 表題の文頭および次に示す品詞の語頭は, 大文字にする.

語頭を大文字にする品詞: 名詞, 代名詞 (Them, Him, Her など),
形容詞, 動詞 (助動詞を含む), 副詞, 間投詞

(2) 次の品詞の語頭は, 小文字にする.

語頭を小文字にする品詞: 冠詞 (a, an, the), 前置詞 (at, in, to など),
接続詞 (and, after など)

(3) 副題の表記法は, 主題のそれと同じにする.

3) ローマ字氏名が連名の場合には, 各氏名を「,」で結ぶが, 最後の氏名は「and」で結ぶ.

4) 共著者に学外者が含まれる場合には, 氏名 (和文およびローマ字の両方) の右肩に*を付し, 下部に*に続けてその所属を示す. 学外者が複数で, かつ所属が異なる場合には, *の数を増やして明示する.

(例) *南北大学 文学部 心理学科, **〇〇〇役場 保健師

4. 要旨(欧文の場合は, Abstract 等)

第2頁目には要旨を記す. 和文の場合は400字以内, 欧文の場合は250語以内とする. 本文が日本語で, 要旨が欧文であってもよい. 目的, 方法, 結果, 考察を含めて, 本文中の内容が理解できるように平易な文で簡潔に書く. 欧文要旨には和訳を添える (その際, 和訳は印刷されない).

5. キーワード(Key words 等)

第2頁の要旨の下に, キーワード (Key words) を日欧両語それぞれ3~5句付す.

(例) ノーマライゼーション (normalization), 看護診断 (nursing diagnosis),
glucuronic acid (グルクロン酸), 棕鳩十 (Hatojyuu Muku),
間接伝達 (mittelbare Mitteilung), ユネスコ (UNESCO)

6. 本文

1) 本文は第3頁目からはじまる. 本文各頁の下段余白中央に頁番号を1から順に記入する.

2) 見出しは, 原則として次のように書く (1頁参照).

(1) 大見出し…ゴチック体で書き, 本文の書き出しを除いて, 上を1行空ける.

(2) 中見出し…ゴチック体で書く.

(3) 小見出し…ゴチック体で書いてもよい.

3) 図表の挿入箇所は, 本文原稿の右の余白に赤色で指定する.

4) 文献を引用する場合, もしくは注釈を付けたい場合には, 例に示すように当該箇

所の右肩に順に片カッコで番号を付す。内容は論文末に番号順にまとめて記載する。

(例) 1) 2-5) 1, 3, 5) 1, 3-5, 9) …であり⁷⁾, …である⁸⁾。

7. 図(写真)および表 等

- 1) 図表は一枚に一つずつ書き、本文に添付する。用紙のサイズは原則として A4 版とする。各図表をのせた紙には、余白のところにそれぞれ鉛筆がきで投稿者名を記入する。
- 2) 図表は執筆者の指示のない限り原稿をそのまま印刷するので、鮮明なものを用意する。図表について特に専門家の墨入れを希望する場合は、鉛筆でわかりやすくその旨を記入する。
- 3) 図表には、図 1、図 2 のように通し番号をつけ、続けてその図表のタイトルを付ける。但し、図や表がひとつの場合には通し番号はいらない。図表タイトルの活字の字体と大きさは、なるべく本文と同じとするが、注、出典、説明文等の字の大きさについては変更が可能なので、必要な場合には投稿者が指示する。
- 4) 罫線の種類(太線・細線・点線等)は投稿者が指示をする。
- 5) 刷り上がりの寸法は図幅の最大が、6.3cm もしくは 13.5cm となるので、それを想定して各図ごと余白に、縮尺もしくは横の長さの仕上がり寸法を指定すること。
(例) 縮尺 1/2 もしくは 横 6.0cm 仕上げ
- 6) 図表の説明文は、本文を見なくても大要が把握できる程度に簡潔に記載する。
- 7) 写真は図として掲載する。必要があれば、写真のみ、カラーも可とする。
- 8) 資料もできるだけ図または表として、出典を明記する。出典の説明は本文中で行うか、図表の下に示すか、図表のタイトルに肩文字で番号をつけて文献欄で行う。また、他の著作物から図表を引用する場合には、必要に応じて原著作者または著作権所有者から使用許可を得ておく。
- 9) アンケート調査に基づいた研究は、原則としてその調査票を論文末に添付する。
- 10) 本文が日本語であっても、図表の内容、タイトルおよび説明は欧文でもよい。

8. 注(註)および文献

- 1) 内容的に注と文献の両方が含まれる場合には、注として記載する。また、注は註と表現してもよい。
- 2) 注を含まない場合は、文献として記載する。引用文献と参考文献は、区別することなく文献として記載する。文献は、本論文に関係のあるものに限り、最小限にとどめる。
- 3) 文献の記載形式は次のとおりとする。

注意点

- ※ 著者名，編者名が多数の場合も，原則として全員書くこととする。但し，「ほか」，「*et al.*」を付けて省略することもできる。
- ※ 雑誌と書籍とでは西暦年の場所が異なる。
- ※ 欧文の雑誌略名や書名はイタリック体で書く。

(1) 雑誌の場合

著者名：論文題名．雑誌名，**巻**（号），頁一頁，西暦年。

注意点

- ※ 論文題名の後にはピリオド「.」を付ける。
- ※ 雑誌の引用頁には p.をつけない。
- ※ 雑誌略名は定められているものについてのみ，その略名に従う。
- ※ 論文題名の副題は，内容表示に必要なければ省略できる。
- ※ 雑誌に巻，号両方の頁数が示されている場合には，1 号からの通し頁を使う。

- (例) 1 安部由起子，大竹文雄：税制・社会保障制度とパートタイム労働者の労働供給行動．季刊社会保障研究，**31**(2)，120-134，1995.
- (例) 2 山本あい子：日本人妊婦における時間間隔，母性課題，そして母性役割行動．看護研究，**29**(2)，94-109，1996
- (例) 3 Tamura, S., Nakanishi, M. & Kawamura, C. : Effects of storage on the cooking quality of sliced potatoes. *J. Home Econ. Jpn.*, **47**(3), 203-211, 1996.

(2) 書籍の場合

注意点

- ※ 書籍の引用頁で p.は単頁の引用，pp.が複数頁の引用を示す。

i) 単行本の場合

著者名：書名，発行所名，発行地名，西暦年，**pp.** 頁一頁。

- (例) 1 津守真：保育の一日とその周辺，フレーベル館，東京，1989，pp. 201-235.
- (例) 2 島田キミエ，山崎清子：調理と理論 第2版，同文書院，東京，1996，pp. 116-138.
- (例) 3 Strong, B. & DeVault, C. : *The Marriage and Family Experience* 5th ed., West Publishing Co., New York, 1992, pp. 91-121.

ii) 双書，編集図書，論文集等の場合

章の著者名：章の題名．書名(編者名)，発行所名，発行地名，西暦年号，**pp.** 頁一頁。

注意点

- ※ 双書、編集図書、論文集等とは、1冊の本において複数の著者が各々の担当箇所をはっきりさせて執筆している場合のこと。引用した章（もしくは論文）の著者名を最初に記す。
- ※ 章の題名（もしくは論文名）の後にはピリオド「.」を付ける。
- ※ 講座や体系の書籍の場合には、書名のあとに講座名や体系名をつける。（例 4, 5 参照）

- (例) 1 金井秀子：小児の心理とその保健．最新小児保健 新版（楠智一編），日本小児医事出版社，東京，1994，pp. 111-136.
- (例) 2 三神敬子：保育内容「言葉」の意義．言葉（岸井勇雄ほか編），チャイルド本社，東京，1990，pp. 11-26.
- (例) 3 広田直子：栄養指導の方法と技術．栄養指導論 第2版（石渡和子編），中央法規出版，東京，1995，pp. 45-71.
- (例) 4 日野原重明：医療教育の問題点．教育への告発（佐伯胖ほか編），現代の教育 第0巻，岩波書店，東京，1998，pp.169-173.
- (例) 5 神代上．日本書紀 前篇（黒板勝美，国史体系編修会編），国史体系，吉川弘文館，東京，1966.

iii) 翻訳書の場合

原著者名（翻訳者名）：翻訳書名，訳本名，発行所名，発行地名，西暦年，
pp. 頁－頁．

- (例) 1 ゲゼル，A.（生月雅子訳）：狼に育てられた子，家政教育社，東京，1995，pp. 1-142.
- (例) 2 Orem, D. E.（小野寺杜紀訳）：オレム看護論－看護実践における基本理念－，医学書院，東京，1995，p.314.
- (例) 3 Scheve, L. G.（駒野徹，中澤淳，中澤晶子，酒井裕，森田潤司訳）：ライフサイエンス基礎生化学，化学同人，京都，1993，pp. 299-317.

(3) インターネットの場合

著者のラストネーム，ファーストネーム．“文章のタイトル”．（可能であれば）作成日または更新日．＜URL＞（アクセス日）．

- (例) 1 Andrew, Harnack. “Beyond the MLA Handbook.” 25 Nov. 1996.
＜http://falcon.eku.rdu/honor/beyond-mla/> (30 Jan. 1999).

(4) 同じ文献を再引用する場合

i) 日本語の場合

同じ文献で引用ページが異なる場合，それらが「注」または「文献」の記載の中で連続するときには「同上」に続いて頁数を記し，連続しないときには「前掲」に続いて文献名と頁数を記す。

- (例) 1 砂原茂一：リハビリテーション，岩波書店，東京，1980，p.2028.
- (例) 2 中野昇：腰痛の臨床，南江堂，東京，1976，pp.56-62.
- (例) 3 同上，pp.31-35.

(例) 4 前掲, リハビリテーション, pp.45-48.

ii) 英語の場合

同じ文献で引用ページが異なる場合, それらが連続するときには「*Ibid.*」に続いて頁数を記し, 連続しないときには「*Op. cit.*」に続いて文献名と頁数を記す.

(例) 1 Eliot, T. S. : *The Complete Poems and Plays*, Fabor & Fabor, London, 1969, p.25

(例) 2 Yeats, W. B. : *A Vision*, Macmillan, London, 1937, pp.13-17

(例) 3 *Ibid.*, p.18.

(例) 4 *Op. cit.*, *The Complete Poems and Plays*, p.78.